

107

H

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 25 年 2 月 11 日 12 時 45 分 ~ 14 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 38 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

1 「臨床研究に関する倫理指針」に基づいた臨床研究について誤っているのはどれか。

- a ヘルシンキ宣言に従う。
- b 個人情報の保護に配慮する。
- c 臨床研究機関の長の許可を受ける。
- d 社会的利益が被験者の福利より優先される。
- e 被験者の生命、健康、プライバシー及び尊厳を守る。

2 問題指向型医療記録(POMR)における SOAP の O に該当する事項として正しいのはどれか。

- a 検査計画
- b 帰宅後の生活指導計画
- c 医師による分析・評価
- d 患者の主観的な症状や訴え
- e 患者の痛みスケールの得点

3 臨床機能評価指標(クリニカルインディケータ)について正しいのはどれか。

- a 5年に一度更新が必要である。
- b 疾患の重症度を示す指標である。
- c 多職種の作業工程を一覧できる。
- d 医療の質の継続的な改善に利用される。
- e 機能検査における精度管理の指標である。

4 flow-volume 曲線(別冊No. 1)を別に示す。

長年の喫煙習慣と関連する閉塞性障害を示すのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 1

5 医療面接における解釈モデルを尋ねているのはどれか。

- a 「かかりつけ医の病状説明はどのような内容ですか」
- b 「健康のために日常生活で何か気を付けていますか」
- c 「検査結果の説明について十分に理解できましたか」
- d 「病院職員の対応について何かご不満はありますか」
- e 「病気の原因について思い当たることはありますか」

6 便秘の原因となりにくいのはどれか。

- a オピオイド
- b 抗コリン薬
- c ラクツロース
- d 三環系抗うつ薬
- e ドパミン作動薬

7 「車を運転していて人をはねてしまったんじゃないかと思うんです。そんなことはないと分かっているんですが、どうしても気になります」という訴えから考えられるのはどれか。

- a 強迫観念
- b 罪業妄想
- c 作為体験
- d 滅裂思考
- e 妄想着想

8 身体診察中に患者に行う声かけとして適切でないのはどれか。

- a 「今から、心臓の音を聴かせてください」
- b 「今から、この爪ようじで腕や脚を触ります」
- c 「お口の中をみますので、大きく開けてください」
- d 「このおなかのしこりは、硬さと形から癌だと思われます」
- e 「体にバスタオルを掛けますが、寒かったらおっしゃってください」

9 人体の模式図(別冊No. 2)を別に示す。

打診によって肋骨脊柱角叩打痛を確認する部位はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊
No. 2

10 徒手筋力テストの図(別冊No. 3)を別に示す。矢印の方向に左下肢を動かしている。

主に働く筋はどれか。

- a 腹直筋
- b 腸腰筋
- c 中殿筋
- d 縫工筋
- e 大腿四頭筋

別 冊 No. 3

11 白血球減少をきたすのはどれか。

- a Sweet 病
- b 成人 Still 病
- c Sézary 症候群
- d Weber-Christian 病
- e 全身性エリテマトーデス(SLE)

12 血液培養について、菌血症の診断における感度を下げるのはどれか。

- a 検体を冷蔵保存する。
- b 検体採取の回数を増やす。
- c 抗菌薬を投与する前に採取する。
- d 異なる部位から2セット採取する。
- e 好気性ボトルより先に嫌気性ボトルに分注する。

13 有病率が10%の集団に感度が90%、特異度が70%のスクリーニングテストを実施した。

陽性適中率(陽性者のうち真の有病者の割合)で正しいのはどれか。

- a 10%
- b 25%
- c 33%
- d 70%
- e 90%

14 繰り返すめまいと難聴とを特徴とする疾患はどれか。

- a 耳硬化症
- b Ménière病
- c 前庭神経炎
- d 騒音性難聴
- e 良性発作性頭位眩暈症

15 過敏性腸症候群にみられるのはどれか。

- a 灰白色便
- b 黒色便
- c 脂肪便
- d 兔糞状便
- e 粘血便

16 造血幹細胞移植で使用する陽圧に保たれた無菌室の模式図(別冊No. 4)を別に示す。一般病室とは扉Ⅰと扉Ⅱとで隔てられており、ベッドの頭側の壁には空気清浄器の供給口が設置されている。ベッドと扉Ⅱとの間には透明なビニールカーテンがあり、カーテン越しに患者の観察や会話が可能である。

感染防御の点から、医師が立つ位置として好ましくないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別冊 No. 4

17 静脈留置針による末梢静脈路の確保について正しいのはどれか。

- a 穿刺する部位は前腕の橈側遠位部を第一選択とする。
- b 針の先端をアルコール綿で消毒してから穿刺する。
- c 血液の流出を確認後に内針とカテーテル(外筒)とを数mm進める。
- d 内針を抜去してから駆血帯を外す。
- e カテーテルを抜去した後は穿刺部位をよく揉む。

- 18 我が国における尊厳死について正しいのはどれか。
- a 法的な許容要件が確立している。
 - b 文書によるリビングウィルの存在が必須である。
 - c 患者の苦痛軽減を目的とする持続的な鎮静のことである。
 - d 医師が致死薬を患者に投与して死に至らしめることである。
 - e 患者の自己決定権と人間としての尊厳を守ることが目的である。
- 19 糖尿病の患者が行動変容の準備期に入ったと考えられるのはどれか。
- a ストレッチ体操を7か月続けている。
 - b 夕食後に必ずデザートを食べている。
 - c 食べなくなったらストレッチ体操をするようにし始めた。
 - d 糖尿病が悪化しているので来月から間食をやめようと思う。
 - e テレビを見ているとついお菓子を食べてしまうことがある。
- 20 検査と物理現象の組合せで正しいのはどれか。
- a electrocardiography ————— sound
 - b endoscopy ————— heat
 - c magnetic resonance imaging ————— light
 - d positron emission tomography ————— radiation
 - e ultrasonography ————— gravitation

21 56歳の男性。食思不振と体重減少とを訴え検査入院となり、病期Ⅳの胃の低分化腺癌と診断された。近日中に家族と面談することになったが、患者本人は「家族には必ず治る状態であると伝えて欲しい」と希望した。

医師の最初の返答として適切なのはどれか。

- a 「嘘をつくことはできません」
- b 「どうしてそうおっしゃるのですか」
- c 「ご家族との面談を中止しましょう」
- d 「あなたからご家族にお伝えください」
- e 「ご家族にはもっと軽い病状であると伝えましょう」

22 70歳の女性。脳梗塞を発症し、病院での急性期治療とリハビリテーションを終えて退院した。動作は緩慢であるが日常生活に支障はない。月1回、外来で降圧薬と抗凝固薬とを処方されている。介護保険の申請をしたが非該当と判定された。

介護予防について主治医が勧める相談先として適切なのはどれか。

- a 保健所
- b 福祉事務所
- c 市町村保健センター
- d 精神保健福祉センター
- e 地域包括支援センター

23 33歳の女性。不安感、不眠および頭重感を主訴に来院した。初診時、外来担当医は、患者に対して抗不安薬であるジアゼパム 2mg、1日3回の内服処方のみで処方箋を交付した。2週間後、患者によると不眠と頭痛とは軽減したが、日中の眠気が強くふらつきが出るという。電子カルテ上の履歴を確認したところ、ジアゼパムが1回2mgではなく5mg、合計1日15mgで処方箋が交付されていた。担当医は1日15mgまでは保険診療での処方が可能であることはあらかじめ知っている。

担当医がまず患者にかける言葉として適切なのはどれか。

- a 「薬がよく効いているようなので転倒に注意してください」
- b 「前回に調剤の段階で誤って薬の量が多く出てしまったようです」
- c 「あなたには少し量が多すぎたかもしれないので薬を減量します」
- d 「あなたにはこの薬が合わないようですから種類を変えてみましょう」
- e 「前回に処方した薬の量が誤っていました。申し訳ございませんでした」

24 1か月の乳児。発熱を主訴に来院した。2日前から38℃の発熱があり、母乳の飲みが悪く、一日中機嫌が悪いため受診した。咳嗽と鼻汁とを認めない。同胞はおらず、両親と患児の3人で生活している。両親に発熱と感冒症状とを認めない。体温38.7℃。心拍数128/分。呼吸数30/分。SpO₂96%(room air)。咽頭に発赤を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。皮疹を認めない。血液所見：赤血球420万、Hb13.5g/dl、Ht40%、白血球19,300(桿状核好中球15%、分葉核好中球65%、好酸球1%、好塩基球1%、単球1%、リンパ球17%)、血小板40万。CRP5.2mg/dl。

親への説明として適切なのはどれか。

- a 「外来で点滴をしましょう」
- b 「入院して検査や治療を行いましょう」
- c 「解熱薬を使用しながら経過をみましよう」
- d 「外来で経口抗菌薬による治療を開始しましよう」
- e 「お薬は使わずに外来で明日まで経過をみましよう」

25 61歳の男性。両手のしびれ感を主訴に来院した。半年前から両手指のしびれ感を自覚していた。徐々に食事動作や書字動作がしにくくなり、歩行時の足のもつれも生じるようになったため受診した。上肢の巧緻性の低下と下肢腱反射の亢進とを認める。頸椎単純エックス線写真(別冊No. 5)を別に示す。

考えられるのはどれか。

- a 変形性脊椎症
- b 強直性脊椎炎
- c 黄色靭帯骨化症
- d 後縦靭帯骨化症
- e 椎間板ヘルニア

別 冊
No. 5

26 35歳の男性。昨日上腹部痛を訴え診療所を受診した患者が、腹痛が増悪したため再び来院した。今朝から右下腹部に痛みが移動しているという。昨日の診察では上腹部に軽度の圧痛があったが、本日は腹部の診察で右下腹部に局限した圧痛を認める。

次に行うべき対応として最も適切なのはどれか。

- a 診療所で経過観察する。
- b 翌日の再受診を指示する。
- c 鎮痛薬を処方し帰宅させる。
- d 数時間後の再受診を指示する。
- e 手術可能な医療機関へ紹介する。

27 25歳の既婚女性。月経周期は30～40日である。最終月経は昨年12月1日から5日間で、今年1月12日に市販のキットで妊娠検査を行ったところ陽性であったため同日受診した。膣鏡診で分泌物は白色少量である。子宮は鶯卵大で軟。経膣超音波像(別冊No. 6)を別に示す。妊娠初期と診断し患者に伝えた。

現時点での対応についての説明として適切なのはどれか。

- a 「経過観察とします」
- b 「止血薬を処方します」
- c 「子宮収縮抑制薬を処方します」
- d 「直ちに子宮内容除去術を行います」
- e 「本日もう少し診察して分娩予定日を決めます」

別冊 No. 6

28 63歳の女性。血便を主訴に来院した。4か月前から便に血が混じるようになり、持続しているため心配して受診した。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧124/66 mmHg。血液所見：赤血球350万、Hb 10.3 g/dl、Ht 30%、白血球6,600、血小板35万。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、AST 25 IU/l、ALT 33 IU/l、LD 300 IU/l(基準176~353)。注腸造影像(別冊No. 7A)と肛門縁から3 cmの部位の大腸内視鏡像(別冊No. 7B)とを別に示す。

次に行う検査として適切なのはどれか。

- a 胸腹部CT
- b 直腸内圧測定
- c 腹部血管造影
- d 超音波内視鏡検査
- e 半年後の大腸内視鏡検査

別冊 No. 7 A、B

29 70歳の女性。舌の疼痛を主訴に来院した。舌に白色病変を認める。病変部から採取した白色物質の苛性カリ(KOH)直接鏡検法の写真(別冊No. 8)を別に示す。

治療として適切なのはどれか。

- a 抗真菌薬を塗布する。
- b 抗菌薬を経口投与する。
- c 白色病変部の舌を部分切除する。
- d オピオイドで疼痛コントロールを行う。
- e 副腎皮質ステロイド含有軟膏を塗布する。

別冊 No. 8

30 52歳の男性。大量飲酒を主訴に妻に伴われて来院した。23歳から飲酒を始め、10年前からは日本酒1升を毎日飲酒していた。この半年間は朝から飲酒し、食事が減少し、仕事も休みがちになった。健康診断で肝機能障害を指摘されている。意識は清明で、静穏である。このままではいけないと説明したが、本人は「酒を飲まないと思えばやめられる」と述べている。

対応として適切なのはどれか。

- a 節酒を勧める。
- b 抗酒薬を妻に渡す。
- c 抗精神病薬を処方する。
- d 閉鎖病棟に入院させる。
- e 自助グループへの参加を勧める。

次の文を読み、31、32の問いに答えよ。

82歳の女性。意味不明な言動を心配した家族に伴われて来院した。

現病歴 : 1週間までは特に変わった様子はなかった。数日前から食欲が低下し、昨日の朝からつじつまの合わない言動がみられるようになった。今朝はパジャマのまま外出してしまい、連れ戻そうとすると大声で騒ぐため、心配した家族に連れられて受診した。

既往歴 : 60歳時に甲状腺癌で甲状腺・副甲状腺全摘術を受けた。術後から甲状腺ホルモン、活性型ビタミンD及びカルシウム剤を服用している。65歳時から高血圧症で服薬加療中。最近は腎機能障害と高血糖とを指摘されている。

生活歴 : 娘の家族と同居。

家族歴 : 母親が脳卒中のため75歳で死亡。

現症 : 体温36.0℃。脈拍64/分、整。血圧152/74 mmHg。呼吸数16/分。舌と皮膚とは乾燥している。開眼しているが、質問に対して返答せず、意味不明の発言を繰り返す。

検査所見 : 血液所見：赤血球367万、Hb 10.5 g/dl、Ht 33%、白血球4,200、血小板22万。血液生化学所見：随時血糖167 mg/dl、HbA1c (NGSP) 6.0% (基準4.6~6.2)、総蛋白6.4 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、総コレステロール212 mg/dl、尿素窒素40 mg/dl、クレアチニン1.7 mg/dl、尿酸8.0 mg/dl、Na 142 mEq/l、K 4.5 mEq/l、Cl 100 mEq/l、Ca 13.0 mg/dl。CRP 0.5 mg/dl。

31 この精神障害の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 貧血
- b 高血糖
- c 高尿酸血症
- d 高カルシウム血症
- e 低アルブミン血症

32 この精神障害に特徴的なのはどれか。

- a 睡眠は良好である。
- b 記憶力は保たれる。
- c 意識は清明である。
- d 症状は変動しやすい。
- e 根本的な改善は期待できない。

次の文を読み、33、34の問いに答えよ。

75歳の男性。胸痛を主訴に来院した。

現病歴 : 半年前に重い荷物を運んだ時に前胸部全体に締め付けられるような胸痛を自覚したが、数分で消失した。胸痛時には左肩にも痛みが広がった。その後も胸痛を感じるため受診した。受診時には胸痛はない。胸痛は体位を変換したり、自分で胸部を押さえても生じない。息切れや体重増加はない。

既往歴 : 60歳時から高血圧症と脂質異常症とで治療中。糖尿病は指摘されていない。

生活歴 : 喫煙は20本/日を55年間。飲酒歴はない。

家族歴 : 父親が肺癌のため75歳で死亡。母親が脳梗塞のため80歳で死亡。

33 緊急性の判断に最も重要な質問はどれか。

- a 「夜はよく眠れますか」
- b 「胸がドキドキすることはありますか」
- c 「家族に同じような症状の人はいますか」
- d 「最近はどのような時に胸が痛みますか」
- e 「生活でストレスを感じることはありますか」

34 この患者に合併しやすい疾患を念頭において身体診察を行うこととした。

重要度が低いのはどれか。

- a 両側の頸部の聴診
- b 両側上肢の血圧測定
- c 起立時の血圧測定
- d 上腹部の聴診
- e 足背動脈の触診

次の文を読み、35、36の問いに答えよ。

32歳の女性。持続する咳嗽を主訴に来院した。

現病歴 : 2か月前から鼻汁と鼻閉とを感じていた。1か月前から咳を自覚するようになり、3週間前から咳が増強し、続いている。特に夜間に咳嗽が強い。

既往歴 : 5歳時にアトピー性皮膚炎を発症。

生活歴 : 両親と3人暮らし。事務職。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。5か月前からハムスターを飼っている。

家族歴 : 父親が高血圧症で治療中。

現症 : 意識は清明。身長160 cm、体重50 kg。体温36.4℃。脈拍88/分、整。血圧126/72 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 98%(room air)。咽頭粘膜に発赤を認めない。両側の胸部に強制呼出でwheezesを認める。胸部エックス線写真(別冊No. 9)を別に示す。

別冊

No. 9

35 診断のために最も適切な検査はどれか。

- a スパイロメトリー
- b 心エコー検査
- c 気管支鏡検査
- d 胸部単純 CT
- e 喀痰培養

36 外来で通院治療していたが、自宅で歯痛があり市販の鎮痛薬を服用したところ、約 30 分後喘鳴と呼吸困難とを生じたため受診した。意識は清明。両側の胸部に wheezes を聴取する。

直ちに行う処置はどれか。

- a 硝酸薬の舌下投与
- b β_2 刺激薬の吸入
- c 利尿薬の静注
- d 抗菌薬の静注
- e 気管挿管

次の文を読み、37、38の問いに答えよ。

55歳の男性。仕事場で急に倒れ、意識障害のため搬入された。

現病歴 : 家族の話では、昨晚急に頭痛を訴え臥床し、夜間に数回嘔吐したという。今朝も頭痛と悪心とを訴えていたが、通常通りの時間に出勤したという。工作中に突然、意識を失い倒れたため、同僚が救急車を要請した。

既往歴 : 3年前から高血圧を指摘されているがそのままにしていた。12年前に胃癌の手術を受けている。

生活歴 : 喫煙は20本/日を35年間。飲酒はビール500ml/日を25年間。

家族歴 : 父親が脳内出血のため74歳で死亡。

現症 : 意識レベルはJCSⅢ-100、GCS〈Glasgow coma scale〉7。眼球の右方への共同偏位と項部硬直とを認める。瞳孔径は右6mm、左3mmである。脈拍60/分、整。血圧192/112mmHg。過呼吸を認める。SpO₂100%(マスク4l/分酸素投与下)。心電図で異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球488万、Hb15.3g/dl、Ht46%、白血球10,500、血小板21万。血液生化学所見：血糖132mg/dl、HbA1c(NGSP)5.8%(基準4.6~6.2)、総蛋白7.8g/dl、アルブミン4.8g/dl、尿素窒素15mg/dl、クレアチニン0.8mg/dl、尿酸4.5mg/dl、総ビリルビン0.6mg/dl、AST16IU/l、ALT13IU/l、LD195IU/l(基準176~353)、ALP187IU/l(基準115~359)、 γ -GTP17IU/l(基準8~50)、CK112IU/l(基準30~140)、Na139mEq/l、K3.8mEq/l、Cl103mEq/l。CRP2.0mg/dl。

37 治療の緊急度を判定する上で重要なのはどれか。

- a 下顎反射
- b 対光反射
- c 輻輳反応
- d 膝蓋腱反射
- e Babinski 徴候

38 頭部単純 CT(別冊No. 10)を別に示す。

この CT でみられるのはどれか。

- a 動脈瘤
- b 塞栓子
- c 脳幹出血
- d 動静脈奇形
- e くも膜下出血

別 冊 No. 10

